

平成 18 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告及び平成 19 年度実施計画

I 平成 18 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告

1. 実施項目

(1) 生息状況モニタリング調査

個体数調整及び区域保全対策・単木保護対策の効果を把握するとともに、ニホンジカ保護管理計画の検証や適正な捕獲数の算出に資するデータを得るため、継続的な生息密度調査(糞粒法、ルートセンサス法)及び GPS 発信機による行動圏調査を実施した。

(2) 個体数調整

ニホンジカによる自然植生への影響の軽減を図り、将来的に健全なシカ個体群を維持する生息環境を回復させるとともに、健全な森林生態系を取り戻すことを目的とし、個体数調整及び捕獲個体分析を実施した。

(3) シカによる植生への影響調査

ニホンジカによる植生への影響を把握するため、緊急対策地区で下層植生調査及び剥皮状況調査、重点監視地区・周辺地区で毎木調査及び植生調査を実施した。

(4) 区域保全対策・単木保護対策

ニホンジカによる植生への影響を軽減するため、防鹿柵の設置を行った。また、防鹿柵内に残っていたラスの撤去を行った。

(5) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）の策定

ニホンジカ保護管理部会及び個体数調整、植生保全対策ワーキンググループを開催し、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）の検討を行うとともに、意見募集及び説明会を実施した。

2. 部会等の開催状況

平成 18 年 5 月 8 日	第 1 回区域保護対策及び単木保護対策検討 WG (森林生態系部会と合同)
5 月 24 日	第 2 回区域保護対策及び単木保護対策検討 WG (森林生態系部会と合同)
6 月 1 日	森林生態系保全再生手法及びニホンジカ保護管理手法検討 WG (森林生態系部会と合同)
11 月 8 日	第 1 回植生保全対策 WG (森林生態系部会と合同)
11 月 29 日	第 1 回個体数調整 WG
12 月 12 日	第 2 回個体数調整・植生保全対策 WG (森林生態系部会と合同) 第 1 回ニホンジカ保護管理部会
平成 19 年 1 月 16 日	第 3 回植生保全対策 WG (森林生態系部会と合同) 第 3 回個体数調整 WG
2 月 2 日	第 2 回ニホンジカ保護管理部会
3 月 11 日	大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）説明会

表－1 平成18年度「ニホンジカ保護管理」実施状況

	平成18年											平成19年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
ニホンジカ保護管理部会										●		●		
(1)生息状況モニタリング調査								糞粒法 ルートセンサス法						
(2)個体数調整						個体数調整								
							捕獲個体分析			● WG	● WG	● WG		
(3)シカによる植生への影響調査							下層植生調査							
(4)区域保護対策・単木保護対策						植生保全対策に関する検討								
							区域保全対策							
							単木保護対策			● WG	● WG	● WG		
(5)ニホンジカ保護管理計画(第2期)の策定						ニホンジカ保護管理計画(第2期)の策定								

3. 実施内容

(1) 生息状況モニタリング調査

1) 生息密度調査

糞粒法による近年の生息密度は、全体的に安定し、大きな変化は見られなかった。ルートセンサス法では、1990年代後半以降減少傾向を示しているが、西大台ヶ原での生息密度が東大台ヶ原と同程度の値となっている。全体的には、依然、高い密度で推移している。

2) 行動圏調査

平成17年度にGPS発信機を装着したメス成獣4頭について、解析を実施した。測位成功率は約6割から7割であり、他地域よりも高い測位成功率を示した。

4個体とも12月から3月を除き緊急対策地区を利用し、12月から3月にかけて3個体は東方向の尾根伝いに低標高地域に移動した後再び緊急対策地区に戻った。残りの1個体は東川付近の谷沿いに移動し、再び緊急対策地区に戻った。

(2) 個体数調整 (平成19年3月15日現在 3月下旬に捕獲予定)

1) 捕獲状況

平成18年6月5日から12月5日までの54日間実施し、25頭（オス8頭、メス17頭）を捕獲した（捕獲目標78頭）。

捕獲方法は、アルパインキャプチャー（9頭）、麻酔銃（16頭）及び簡易捕獲ワナ（0頭）を併用した。

捕獲効率（頭数／日数）は0.46であり、平成15年度から減少傾向を示している（15年度：1.25、16年度：0.75、17年度：0.48）。

2) 捕獲個体分析

栄養状態（RKFI指数）については、サンプル数が少なく傾向が分からぬが、夏季と秋季での変化は見られなかった。成獣メスでは夏季から秋期かけ値が高くなった。

繁殖状況については、胎児による妊娠率は7.1%（2歳以上のメス14頭中1頭）、乳汁の有無及び胎児による繁殖率は85.7%（14頭中12頭）で昨年よりやや高くなつた（昨年度75.0%）。

胃内容分析については、例年通りササが主体であったが、秋は夏のササ依存から枯葉への依存へ転換していた。また、その他今年度の特徴として、針葉樹と堅果類が少なかつたこと等が確認された。

(3) シカによる植生への影響調査

1) 下層植生調査（緊急対策地区）

ササ類については、ミヤコザサは被度、高さとともに増加しているのに対し、スズタケはいずれも減少していた。

2) 剥皮状況調査（緊急対策地区）

平成17年度に、剥皮状況と枯死の関係について「剥皮度が大きくなるほど枯死率が高くなる」という整理がなされたため（平成8年～17年度調査結果より）、本調査は一旦休止し、今後はモニタリングのため一定の間隔で実施することとした。

3) 每木調査・植生調査（緊急対策地区）

緊急対策地区において、下層植生調査を実施し、剥皮状況等について確認した。

(4) 区域保護対策・単木保護対策

1) 区域保護対策（防鹿柵）

森林生態系の多様性の保全のため、防鹿柵を設置すべく、測量を実施した。（4箇所 約3.06ha）

※防鹿柵：平成19年7月設置予定。

2) 単木保護対策（ラス巻き付け）

防鹿柵内の樹木（枯死木・倒木含む）、防鹿柵外の枯死木及び倒木に巻きつけられていたラスを撤去した。（ラスを撤去した樹木本数：約2,000本）

3) パッチディフェンス

ギャップ内の稚樹・幼木などの後継樹の保全のため、試験的にパッチディフェンスを設置すべく、測量を実施した。（5箇所12基 約0.09ha）

※パッチディフェンス：平成19年7月設置予定。

※大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）案では、ニホンジカによる採食等に起因する直接的な影響を排除することを目的とし、植生保全対策を実施することとしている。

森林生態系の多様性の保全のための防鹿柵、ギャップ内の稚樹・幼木などの後継樹の保全のためのパッチディフェンスについては、森林生態系部会での検討事項に移行する。

(5) 大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）の策定

ニホンジカ保護管理部会及び個体数調整、植生保全対策ワーキンググループを開催し、現行計画の実施結果の評価を行うとともに、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）の内容について検討を行った。

さらに、計画案について近畿地方環境事務所ホームページにて意見募集を行うとともに、奈良県吉野町において説明会を実施した。

Ⅱ 平成19年度「ニホンジカ保護管理」実施計画

1. 生息状況モニタリング調査

継続的な生息密度調査（糞粒法、ルートセンサス法）、行動圏調査を実施する。

2. 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）に基づき、2～3年間で緊急対策地区内の生息密度を10頭／km²に低減すべく個体数調整及び捕獲個体分析を実施する。

(この場合の年間捕獲頭数はシミュレーションの結果 70 頭から 95 頭と算出される)

3. シカによる植生への影響調査

緊急対策地区及び重点監視地区で下層植生調査を実施する。

4. 区域保全対策・単木保護対策

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）に基づき、5カ年間の整備計画を策定するとともに、緊急性の高い箇所について防鹿柵を設置する。

単木保護対策については、防鹿柵による区域保護が困難な箇所に設置するとともに、老朽化したものの張り替えを実施する。

表1 平成19年度「ニホンジカ保護管理」実施スケジュール

	平成19年											平成20年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
評価委員会														○
二ホンジカ保護管理部会						○						○		
(1)生息状況モニタリング 調査													糞粒法 ルートセンサス法 行動圏調査	
(2)個体数調整													個体数調整 捕獲個体分析 WG	
(3)シカによる植生への影 響調査													下層植生調査 WG	
(4)区域保護対策・単木 保護対策													植生保全対策に関する検討 区域保全対策 単木保護対策 WG 現地WG (森林生態系部会と合同)	